

100  
15

# 法學部総会とアピール

「日5日、代が法學部民主化の基本方向とその執行にめない。責任者たる議長の追及集会にする」として議長のあだる正代表団の選出という重大な任務を持った総会は、法斗委、法院斗、スト更、全共斗等、暴力学生の襲撃によって集会が不可能となったのはまる6月19日法學部集会についての度目である。」

以下書きあげる憤りを抑えつつ200余名の証人のもとに事実経過を報告する。

5日午後1時から開催される予定だった総会は30分遅れで1時半より工学部階段教室で始まった。まず総会は現母体たる学生大会裏現実行C議長より総会に至る経過報告がなされた。次いで議長団、運営管理委員会が選出され、議長団の議事運営に関する報告の後、会議は順調に進行し始めた。総会のスケジュール通り、F主仁の基本方向に関する提案およびその説明に入つた。△提案として学生大会裏現実行Cから、B提案として丁II有志から、C提案として丁IIA有志から、同時にD提案として丁IAB決議がりそれと併せて水10分の代表者が説明した。続いて2時10分から提案ごとの討論を開始した。法実行Cの提案を支持する立場から丁IIBの学生交差言中、教育芝生で総会、粉碎のための決定集会を開いていた法斗委、スト更、法院斗、全共闘等が△モ隊列を組み「総会粉碎！」のシーアフレイコールを行なながら入口に殺到せんとした。この事態に対し総会議長団は直ちに議論を中断させしめ、一度扉を閉めるよう指示した。その後(2時18分ごろ)四方の扉への体当たり窓への投石等の妨害の中で、議長団は「法學部全學生はこの総会に参加する権利と義務がある。彼らが暴力粉碎ではなく総会運営の民主的ルールを守り、議長団の指示に従うならば当然参加できる」と、この事が彼らと確認できるならば扉を開けること更に「その為の交渉に議長団の名を派遣すること」を総会参加者に提案した。この議長団の提案は承認された。それにもとづき議場外に坐り、議長2名へ藤井、安田が彼らの代表者に呼びかけた。しかし、法斗委、法院斗、スト更、全共斗等の

帰還した議長2名は彼らとの交渉の結果を説明し参り、貢の了承を得た。そして次のことを確認した。オ一に彼らは総会の民主的ルールに従わないばかりか総会 자체を認めていいないと、従つて本総会に参加させる必要のないこと。オニに発煙筒(バルサン注とわかたのは後のこと)を投げたのは法斗委、スト更であること、オ三に法斗委、スト更たのは法斗委、スト更であること、オ三に法斗委、スト更

法院斗等の暴力を断固として糾弾することである。

その後討論を継続しようとしたが、彼らは総会粉碎を叫びながらドモを行なう一方、扉をたたき、投石し、窓によじのぼり、更にはガラスの割れ目からスローカーを押し込み議場内へがなり立て討論の続行を執拗に妨害した。

しかし、そのような妨害にも屈せず、200余名の総会参加者は、この事態の意味を明らかにし、そして再度総会を開き必ず成功させることを固く意志統一した。運営の報告の後、議長団は総会の流会を宣した。その後204名の参加者は隊列をくんで階段教室から退場した。二二でも、去斗委、スト更、全共闘などは隊列の進行を妨害し、かつ突入するの暴行を行つた。それにも屈せず総会参加者は彼らの追撃を振り切つて、杉本町駅前まで行進し、再度総会を開き、必ず成功させることを由び誓つて解散した。

# 法學部 生総 議 アピ ール (11/7)